

埼玉県川越市役所

“小江戸”からの情報発信を裏で支える
Adobe® Creative Suite® 4の活躍

DTP環境の刷新を成功させた川越市の決断



川越市役所庁舎

川越市の広報室では、DTP環境を刷新させた。スタッフの入れ替えが定期的に行われる自治体において、常に安定したクオリティを維持しなければならない川越市広報室が選択したのは、Creative Suite 4だった。今回は川越市役所を訪れ、広報紙作りの現場取材した。



川越市の広報紙“広報川越”の制作を担当する広報室 矢野雄一氏



Adobe InDesign CS4を利用して制作された広報川越。月2回の発行で、4色カラー版と2色版が交互に発行されている



Windows Vista上で稼働するInDesign CS4。段落スタイルや表組の作成機能など、多くの機能が作業効率の向上に役立っているようだ

埼玉県川越市は、県の中央部のやや南部に位置し、34万人もの市民が生活する閑静な住宅街だ。近年は東京のベットタウンとして注目を浴びている川越だが、江戸時代には江戸の経済を支える物流の要所として重要な役割を担ってきた。江戸との縁が強く、その繋がりや反映ぶりから川越は“小江戸”とも呼ばれ、商人が行き交う賑やかなまちとして栄えてきた。今でも当時の面影を残す“蔵造り”の町並みが残されており、東京からわずか1時間ほどの立地条件の良さもあって、国内外から訪れる観光客でいつも賑わっている。そんな川越市の“現在”を伝える広報紙の制作現場でCreative Suite 4が活躍しているという。今回は川越市役所に訪問し、自治体が発行する広報紙の制作現場取材した。

市民の目線から見た広報紙作り

多くの自治体で地元住民に向けて広報紙を発行しているが、その多くは、自治体の施策や活動報告、イベントの告知を主な目的としている。川越市でも、広報紙“広報川越”を月2回発行し、市民や市外からの移住者、観光に訪れた人たちに川越市がどのようなまちであるかを伝えている。

広報紙作りの難しさは、行政から情報を一方的に伝えるのではなく、市民の目線で見えた現在の“川越”を伝えるための工夫が求められる点だ。現在、“広報川越”の編集・制作を担当する同市広報室の矢野雄一氏は、広報紙における紙面構成の難しさについて、次のように語ってくれた。

「川越市は東京に近く、商業、農業、工業のバランスが整ったまちとして知られています。もちろん良いことなのですが、情報を伝える側にとっては、読者ターゲットが絞りにくいということでもあります。市の広報紙は、読者を制限しないことが重要ですので、幅広い読者に興味を持ってもらえるようなテーマ作りが一番気を使っています。」

普段、私たちが何気なく手にしている広報紙に、読み手には意識させない気遣いや工夫が凝らされていることがわかった。

フォーマットとクオリティの維持に注力

自治体における広報紙作りでは、行政機関ならではの課題が残されている。それは人事異動により、制作スタッフが入り替わる可能性があるという点だ。市役所では、毎年、人事の入れ替えが行われ、それまで編集や印刷に携わったことのない職員が、突然、広報の編集担当となるケースも珍しくはない。現在、広報紙の編集を担当している矢野氏の場合も、水道関連の事業部からの転任だったそうだ。

「広報室に転任してきて、まず初めに苦労したのはMac OSの操作でしょうか。」

矢野氏が赴任したばかりの広報室では、当時一般的であったMac OSを利用したDTP環境だった。Windowsの操作には慣れてきた矢野氏だったが、勝手の違うPCでの作業は予想以上に困難だったと言う。加えて、写真撮影から文字校正までこなさなければならない編集業務は、初心者にとって戸惑うことも多かっただろう。

ようやく慣れてきたMac OSもDTP機材のリース契約が終了を迎えることになり、広報室が次なるDTP環境として、WindowsとCreative Suite 4を軸とした環境を視野に入れることになったのは必然的な流れと言えよう。

「制作環境を刷新するにあたって、既存のMac OSの環境をアップグレードして従来のソフトウェアを継続利用する案も検討されました。市のイントラネットなどは基本的にWindows環境を想定して構築されており、職員の多くは、Windows環境での操作に慣れていました。広報紙を担当するスタッフは、まず不慣れなMac OSの使い方を勉強した上で、編集や写真撮影の仕事にも慣れなければならないので、二重の苦労が必要になります。ちょうど、機材のリース期間が終了を迎える時期でもあったので、この機会にDTP環境をWindows環境に移行することを考えました。」

基本システムをWindowsにすれば、異動により新たに広報編集の担当者になった職員は、少なくともOSの違いで悩むことはなくなる。その分の手間を内容作りに活かすことができれば、作業効率の向上にも役立つと考えた結果の決断だった。とは言え、制作するスタッフやDTP環境によって紙面の内容や体裁が大きく変わってはならない。以前と変わらないクオリティを維持することが絶対条件だった。

こうした様々な条件を加味し、かつ入念な調査を経た結果、Creative Suite 4が採用されたわけだ。

自治体データ

埼玉県川越市役所
埼玉県川越市

<http://www.city.kawagoie.saitama.jp/>

チャレンジ

紙面作りの制作環境をMac OSからWindows VistaとCS4 Design Premiumに統一

ソリューション

Adobe Bridge® CS4 を活用して写真整理を行いつつ、InDesign CS4を利用して編集作業を行う

ベネフィット

エクセルの表組みをダイレクトに読み込むことができるようになるなど、作業効率の向上を実現

Tool Kit

・ Adobe® Creative Suite® 4 Design Premium

職人技にこだわるのではなく、内容にこだわりたい。

川越市 広報室 矢野 雄一氏



広報川越の制作作業風景。最新のWindows PC上でCreative Suite 4が動作している



以前のDTPアプリケーションでは、表組みは独自に作成しなければならず、電卓が手放せなかったと語る矢野氏

職人技を必要としないDTPアプリケーション

以前、使用していたDTPアプリケーションでは、文字間の調整や表組みの作成などの細かな作業で、アプリケーション特有のクセを理解する必要があった。クオリティを維持するためにはこうした職人技を覚えなければならず、作業に慣れるまでに多くの時間を必要とした。

生涯、DTPの作業を専門に行う部署に勤務するのであれば、そうしたノウハウを身につけることで、作業効率を向上させることができるが、定期的にスタッフが入れ替わる自治体では、こうした職人技に頼ることはあまり効率的ではない。今回のシステム刷新で、Adobe InDesign® CS4を利用するようになり、こうした職人技を使わなくて済むようになったそうだ。

「以前であれば、表組の罫線など一本一本描いていたのですが、InDesignを利用するようになってからは、エクセルのデータをそのまま貼り込むことができるようになり、作業が楽になりましたね。作業が軽減された分の時間を内容に割り当てることができるようになりました。」と矢野氏は語る。

システムの移行には入念な下調べが重要

すでに、新しいDTP環境下で広報紙を発行し、システム移行の面では成功を見た川越市だが、同様にDTP環境の移行を考えている自治体に向けて、いくつかのアドバイスを頂いた。

「DTP環境の移行で最も重要なことは入念な下調べだと思います。一度導入すれば、リース期間をあえて変更しない限り、システムの変更はできません。また、期間変更をするデメリットを発生させてまで、新たなシステムを導入するような事態は避けなければなりません。その環境をリース期間中、使い続けることができるのか、見極める必要があります。加えて、システム移行に伴い、印刷を請け負う業者が、新旧両方の環境下で、対応可能かどうかチェックする必要があります。」

川越市の場合、市内の印刷会社をリサーチし、新旧の環境下において業務を遂行可能かどうかを調べた結果、幸い、いくつかの印刷会社でサポート可能であるとの結果を得ることができた。目先のことだけでなく、先々のことも考慮しなければならないということだろう。

読者に向けて常に安定したクオリティと正確な情報を提供しなければならない自治体の使命がそこにあった。